議会だより せら

夏本番!!元気いっぱい チビッチスイマー

■今月の主な記事

●小学校統合再編決まる…2〜3
●補正予算8,400万円を追加…4
●臨時会『時短は世論に逆行』修正可決…5
●課題を調査・各委員会は今……6〜7
●一般質問・請願と陳情 ……8〜15
●元気な人紹介・編集後記……16

No.18 平成21年8月11日発行

メールアドレス　gikai@town.sera.hiroshima.jp

4校に再編

賛成 13
反対 2
で可決

「小学校の再編統合」が注目を集めた第2回定例会を6月10日開会した。5月に行った議会報告会「一般質問で政策議論をした後に、それをもとに議案の審議を」といった声を反映して日程を変更した。このため最重要議案の「小学校の再編統合」に関する議案は、最終日の6月23日にこれまでの経過と将来の展望、目指す教育と現況の課題など、まさに白熱した議論のすえ、13対2の賛成多数で可決した。この結果H23年4月から町内4小学校体制へ移行することとなる。

H21年第2回定例会
小学校統合に関する質疑で白熱

質疑内容

もう少し議論すべき

●矢山　統合がなぜH23年なのか。中学校区で甲山2・世羅1の根拠。

■学校教育課長　1日でも早く教育環境の整備をしたい。本当は甲山も1校が望ましいが、財政的に厳しい。

●安佐　8月の耐震検査結果を待っての提案は。

■町長　長期総合計画により3年間議論してきた。

●仲行　閉校記念式費用と子どもとの地域づくりの財政支援はどうする。

元気いっぱい　昆虫採集（大田小学校）

せらにしの例により

■副町長　せらにし小学校の例にならい検討する。自治センターの、ビジョンに沿って助成を行う。

●福田豪　存続校の位置を決めた根拠は。

■学校教育課長　児童数、位置的・地理的に中心にあり、通学対策も距離・時間を総合的に判断した。

どうなる通学バス

●永田　設備が無駄になる具体的説明がいる。バス通学補助は5年後も町費で対応可能か。

■学校教育課長　甲山小学校に9教室増設すれば2億円の事業費。

■町長　私が町長である限り無料で行なう。

●中村　将来の統合の為に目的基金の新設は。

■財政課長　公共施設整備基金で対応したい。

うまく連携できるか

●徳光　幼保小中高の連携はどこまで想定か。

■教育長　せらにし小中学校では合同で活動している。研究実施する。

将来に不安

●豊田　子どもよりお金が優先と聞こえる。中央小学校で何年続くか心配だ。

■町長　財源を惜しむものではない。10年の命とかそういう問題ではない。

これからの課題が山積み

●奥田　通学区が緩和されたが、学区を越えての通学バス措置は。

■教育長　原則は学区の維持だが、今後の検討課題だ。

世羅町立小学校

世羅町立学校設置条例の変更内容（概要）

町内８の小学校を閉校し
「世羅町立宇津戸・中央・伊尾・東小学校」　位置は中央小学校
「世羅町立大田・大見・西大田・津久志小学校」　位置は大田小学校
の２校に改める。統合後の名称は統合準備委員会にて決定される予定。

この条例は平成23年４月１日から施行する。
甲山・せらにし小学校は現行のまま。

討論

討論とは質疑終結後に自己の意見に反対する者及び賛否を決めていない者を自己の意見に賛同させる目的がある。そのため理由を明確にすることが求められる。

反対討論

矢山
永年の歴史の評価と将来のまちづくりの基礎は、熟慮の余地が多すぎる。

豊田
未解明な点を残したままの強引な統合は急ぐべきではない。

賛成討論

岡田
同年齢の子ども達が切磋琢磨する場が必要。

福田豪
感性を磨く相互研鑽の場が必要。場所づくりは行政の責務。

徳光
少子化のなかで自立心と協調性が育まれる環境の整備が急がれる。

安佐
政治生命を賭ける町長を支持する。

能登
大人数でこそ知恵が育つ。将来さみしい思いをさせてはならない。

学校再編による追加補正予算

賛成13反対2で可決

追加議案

全ての日程を終え閉会直前、議長から休憩が告げられた。

小学校統合に関する議案を可決したことで統合準備に必要な補正予算を追加日程とすることを全員協議会で了承した。再開した本会議では「遺漏のない執行」を求める質疑の後、賛成多数で可決した。

教育総務費の増額

統合準備委員会は校長を含め35名を選出し、会議を10回予定している。校名は本年度中に、校章・校章旗・校歌・児童の制服、通学バスや施設整備について協議していただく。

児童の交流事業として施設見学や合同での給食などを考えている。

休憩時間、一斉にグラウンドへ（中央小学校）

本年度はじめての補正予算可決

議案を慎重審議

土地開発公社業務報告

昨年10月末に解散申請し11月10日に県が受理したとの報告をうけた。

H20年度繰越事業の報告

定額給付金・子育て応援特別手当・地域活性化交付金などがある。学校耐震診断も含まれる。道路整備は江之河内本線が繰越となっている。

高規格救急車を導入

一般会計
上水道・簡易水道・公共下水道企業会計
全員賛成　賛成14　反対1

補正予算

国の交付金計算ミスにより追加配分された3千5百万と前年度の繰越金により補正予算が提案された。年度当初に予算化出来なかった三原市電算システムのコンピューター更新や消防署北部分署開設以来、使用してきた救急車（S63年式）も更新する。

先般の上・下水道料金の改定により収益が見込まれる事から繰出金が減額となった。

新型インフルエンザ対策として防護服や消毒液購入、各保育所・小中学校にマスクを配布する。

県教育委員会の新規事業で特色ある学校づくりや、全中学校に学力向上対策事業を導入。国語・数学・英語の強化チームを結成し授業研究を行なう。

主な補正項目（歳出）概要

	（万円）
増額	
庁舎南館空調改修	900
三原市電算ホストコンピューター更新	3,537
新型インフルエンザ対策	458
臨時職員賃金（育児、産休）	394
消防署北部分署，救急車購入	2,820
消火栓修繕（田打・重永）	88
特色ある学校づくり推進費	45
学力向上対策事業	45
減額	
簡易水道繰出金	▲375
公共下水道繰出金	▲63

追加議案
工事請負契約の締結
賛成14　反対1　で可決

町道安田徳市線改良工事を大見砕石㈱に落札決定した。

切土は県内の他の公共工事に使用する。

このたびは、一般競争入札で行なったが次回より雇用対策として指名競争入札で当面実施する。

請負金額	62,212,500円
（うち地方消費税	2,962,500円）
事業量　幅員	7.5m　延長 140m

完成を待ち望む安田徳市線

第2回臨時会

H21年5月27日

原案を修正して可決

提出された議案は8件、「勤務時間の短縮と期末勤勉手当（以下「ボーナス」）の暫定的な減額に関するもの6件、法律の改正による文言の改正2件。

この内「時間短縮にかかわる部分を削除する」修正動議を賛成多数で可決した。これにより関連する2議案が撤回された。議会の議決・承認の必要性と重要性を示した。

どうなる　おおた保育所

（主な質疑の要約）

◎　勤務時間の短縮は窓口を利用できる時間の短縮になる。

◎　保育所など現場を持つ職場はどうする。

◎　権限移譲で事務量は増加、逆に行財政改革で職員は減少。

◎　時間外の増や事務処理の先送りの心配。

◎　不況下での実質賃金アップの考え方。

◎　人事院勧告の外的要因でなく、行財政改革という内的要因を優先すべき。

◎　先の議会で給与報酬のカットを止めた。世羅町としての適正水準は。

◎　人事院の調査内容が世羅町にあてはまるのか。

（主な答弁の要約）

●　周知期間をもうける。事務事業の見直しを検討。

●　人事院は広範囲に適格データをもって勧告している。

●　論理的矛盾を感じながらも現実的処理が必要。

●　三原市へ事務の電算処理を委託。それにあわせることも必要。

●　特別職の報酬は県内で下から2番目の水準。報酬審議会などの判断も必要。

「時間短縮にかかわる部分を削除」する修正動議を賛成多数で可決した。またボーナスの減額に関する議案は原案どおり可決したが、時間短縮にかかわる議案2件の提案は撤回された。

議員発議

「北朝鮮の核実験やミサイル発射の強行は、核兵器廃絶を求める被爆県民として許されない」として、これに強く抗議する発議がされ、全会一致で可決した。

（決議文要旨）

北朝鮮の相次ぐ暴挙は、アジアの安定と平和を脅かすだけでなく、米国オバマ大統領の「核廃絶と核保有国の責任」表明など、国際世論に逆行する。北朝鮮は核兵器の開発を即時中止し、六ヶ国協議への復帰を求める。

また日本政府は、世界の核兵器廃絶に向けて、率先してリーダーシップをとる責務があり、その努力を強化すべきである。

人事

人権擁護委員の推薦を諮問

代田三委（だいだみすえ）氏

世羅町大字宇津戸

H21年6月30日

任期満了（3年）適任とする

課題を調査
委員会は今

総務文教常任委員会
小学校統合　子どもの心情ケアは

現地調査

①書類保管庫
②社会福祉法人みつば会
③いお保育所

以上の現場を視察。

書類保管庫

個人情報の保護がとりざたされている昨今、役場の書類保管状況を調査。現在、役場には保管庫は2ヶ所あり双方ともきれいに清掃、整理されていた。問題点として防火対策がされておらず、窓がガラス製のため不安が残る、指摘し改善を求めた。

社会福祉法人みつば会

（以下、「みつば会」とする。）

障害者基本計画の障害福祉計画見直し後の達成度調査のため、みつば会にて、常務理事・施設長・事務長の説明をうけた。この施設は、H15年に旧3町の授産施設が統合した施設で現在、定員40名に対し39名の利用者がある。日中一時支援事業・相談支援事業・授産事業などの事業をおこなっている。問題点として現在、経費年間約5百万円必要で、人件費部分として世羅町から約3百万円の補助金が出ているが、増額を求められている。また、町外の施設に通所する方には通所助成があるが、町内は対象外で、みつば会利用者は2千円の負担がかかるので町内も通所助成を考えてほしいとのことであった。

いお保育所

H21年4月、3保育所が統合し所長の説明を受けた。現在入所児童38名、最初は環境の変化で慣れないため泣く子もいた。保護者同士の顔がわからないなどの説明であった。

社会福祉法人みつば会視察

事務調査

小学校統合

統合計画・統合後の教育方針・統合時準備スケジュールについて調査。H23年開校となっている。行政の都合で地区によって今年は、こうざん保育所、来年は宇津戸小学校、再来年は中央小学校という現象が現れるが子どもの心情ケアの対応が求められる。

裁判の経過

5月28日に判決がでた、町としては争うことが目的ではなく和解目的なので、控訴しない方向。

消防団の再編

再編の素案を示し、各分団、各部で検討するよう本部から指示している。H22年1月再編する方向である。

書類保管状況調査

産業建設常任委員会

雇用対策　事業入札は

現地調査

①地域活性化事業内の防草コンクリート工事現場。
②改良要望のあった大田地区水路。
③撤去要望のあった小世良地区発酵堆肥野積み現場。
池田地区の袋詰め工場。
以上の現場を視察。

防草コンクリート工事

7月中完成をめどに現在工事中である。

大田地区水路

現場は旧態依然のままで側溝の蓋があるところや無いところもあり老朽化が激しい。

発酵堆肥の野積み

現場にて経営者側より説明をうけた。

Q　いつまで、この状態で放置するのか。

A　原料が産業廃棄物であり、無責任な処理ができない。販売目的で現在、中国に販路を開拓中。

Q　雨水が入り流出した場合有害なものに変化することはないのか。また、乙川へ流れ出ることは。

A　人体に有害なものはない。農水省の抜き打ち検査もあり産廃を受け入れる時点で成分表によって判るようになっている。栄養分の多い物なので藻の発生やＢＯＤなどの変化はあるだろう。ＵＶカットシートで全被覆しパレット敷きして流出対策をしている。

などの質疑応答がなされ委員会としては環境保全の観点で県への対応、条例など研究調査する。

事務調査

雇用緊急対策

5千万円以上の公共工事はしばらくの間、指名競争入札とし、指名業者選定に関しては、選定要綱にしたがって行う。

観光事業

入り込み客はH10年とH19年比較で2・3倍、H20年はガソリン高騰が原因で減少、一人当たりの消費額は千円となる。委員の意見として目印のない交差点が多く分岐点の表示、案内板の整備などの意見が出された。

防草コンクリート（フルーツロード）

公共下水道事業調査特別委員会

事業計画地域の見直しで健全財政に

水稲作付け

水不足による作付け不能面積は合計58戸。13ヘクタール余りで共済組合の保障制度を周知徹底する。

接続状況

H21年4月～6月で一般家庭22戸事業者2件計24件。

今後は

計画の見直し方法として全体計画地域を33のブロックに分け、ブロックごとに事業費を算出し投資効果の高い方から優先順位の上位においた。結果として事業費の軽減が図れる。

「事業費算出法」

家屋間距離・人口・ポンプ設置の有無・管の延長・事業所の有無・浄化槽の処理状況を勘案し投資効果を算出。

汚泥処理棟

尾道松江線調査特別委員会

早期開通を切望する

状況調査

工事は予定どおり順調に進んでいる。H23年尾道・甲山間の開通をめざす。

Q　川尻地区のり面の雑草が目立つ対策を望む。

A　国の工事であり町として要望をする。

今後は、開通による町の振興策を調査する。

質問

施政をただす

Q 小学校統合の総括は A 一定の理解をいただいた

徳光義昭議員

●徳光　①統合の総括は。②H23年4月統合は日程的に無理では。③工事費と財源は。

■教育長　①一定の理解をいただいたが施設整備、通学対策、児童の交流などの意見があった。議会議決後に委員会を設置し理解を求める。②今年度設計し来年度工事を完了する③耐震検査中で整備内容が未決定で困難。財源は国の補助金と起債を充当したい。

Q キラリと光る表玄関の整備を A 全町公園化の中で一層検討したい

手入れされた街路植栽

●徳光　H23年尾道松江線一部供用に備え、国道432号線、寺町から西上原間の花壇整備を。①町民による管理を提案する。県・町の支援策は。②（仮）甲山インター付近の歩道植栽計画は。

■町長　①「広島アダプト活動支援事業」の奨励金があり、自治振興会、NPO法人、企業職員などの活動団体に交付がある。②維持管理軽減のため、計画はないが全町公園化、品格ある町づくりのため、検討したい。

Q 集落支援員制度の導入を A 支援員配置の調査・検討したい

●徳光　総務省は過疎地域の集落機能維持のため、集落を巡回、生活や地域状況を把握し、住民とともに課題の解決、地域づくりの企画・立案に取り組む事業を推進している。費用は特別交付税で措置される。支援員制度の導入を提案する。

■町長　支援員制度の趣旨の明確化、活動しやすい条件整備、課題解決の道筋の整理が必要。諸制度を調査し、人材の確保に努める。

Q 高齢者福祉をどうする A お年寄りを見守る体制をつくる

松本秀治議員

●松本　全国的に少子高齢化の傾向にあり、高齢者福祉に関しては大きな課題がある。基本的には国の基準に準ずるものであろうが、このままで良いものか疑問に感じる。町長も「安心して住み続けられる健康・福祉のまちづくり」を進められているが、考えを伺う。①独居・二人暮らしの安否確認の確立は現在、ふれあい安心電話や民生委員の方々の訪問など、人海戦術での確認は限界を感じる。今後の対策は。②県内で介護保険料が「世羅町が一番安い」と以前報じられた。安いことは良いと思う反面、他の自治体より介護事業が劣っているとも考えられるが。③現在、住宅に火災報知器を進めているが、聴覚で報知するものが大半である。難聴の方への対応は。

■町長　①H18年度から民生委員の負担軽減と、安否確認の充実を目的に小地域福祉ネットワーク事業を展開している。

　また、ふれあい安心電話に代わるサービスを検討している。②本町の介護保険事業の状況は要介護認定率、第1号被保険者一人当たり給付費及び介護サービス利用率はともに県平均で一つの要因として介護認定の軽度者が施設サービスに流れ、居宅サービスの利用者一人当たりの支給額が低いことから保険料額が安くなったと考えられる。③音・光・振動で火災を報知するタイプの物もあり関係機関と連携を図りながら支援をするよう取り組む。

設置された火災報知機

一般質問 全員が

あらゆる角度から

カメリアは営業中

Q せらにし旅行村の今後は

A 方針を早く協議決定する

仙光保喜議員

●仙光　S50年、「青少年の健全な発達と明るく豊かな生活形成を目的に建設された。その後、町民グラウンド、いこいの広場、コミュニティーセンター、クアパルクせらにし、出会いの宿、バーベキューハウス、体育館など整備が充実され、多い時には年間4万人の入村客で賑わった施設だ。数多くの魅力ある施設がありながら、一部の施設が現在閉鎖状態にあることは残念でならない。西の玄関と位置づける旅行村、管理費用を使いながら閉鎖を続けることは許されない。前向きに施設の適切な活用を考えるべきだ。

■町長　太陽と緑豊かな美しい自然を開放し、住民の健康と福祉の増進を図るため、施設を開設し町民に、また、多くのお客様に愛され喜ばれてきた。

しかし、消費動向の冷え込みやレジオネラ菌の発生、さらに源泉の水量低下が新たに発生し、来園者数・収益は大きく減少した。現在、鍵管理・草刈りなどはシルバー人材センターにお願いしている。常時、管理者がいないためお客様の受け入れは行わず、グラウンドゴルフやゲートボールなど地元で継続的な利用団体に限り利用を許可している。

早く再開したいとの思いも持ちつつ「収支」という観点から目を閉ざすことは出来ない。あらゆる方向を検討する中で、地元管理の可能性など選択肢を洗い出し、早く方針を決定するよう協議中である。

Q 水不足・イノシシ被害・里山の荒廃を考える

A 森林整備で活力ある社会構築を

福田　豪議員

●福田豪　年初以来まとまった降水量がなく、水稲の作付け不能、畑作物では収穫不能まで見られる。

一方でイノシシの被害は、農業だけではなく道路、水路、さらに生活面にまで拡大している。

水不足は直接には雨量が原因だが、間接あるいは長期に見れば、イノシシ被害と同様に里山の荒廃が要因のひとつと考える。

■町長　森林には水源涵養や地球温暖化防止など多面的な機能がある。里山を再生することで、イノシシ被害の防止や異常気象の防止に、少なからず役立つと思われる。

事業・制度を活用して森林整備を進め、活力ある農山村社会の構築に努めたい。

里山松くい虫の松を整理

Q バイオマスで「人と自然の輝き」を

A 産業振興にも効果

●福田豪　バイオマス構想は、グリーンニューディールのトップランナーと評価する。

起業立地も可能であり、里山の再生にも活かされる。「人と自然が輝く町」への手段と考える。

■町長　バイオマスタウン構想も含め、実現性のあるものとしたい。また、有効活用で地球温暖化防止、資源循環型社会の形成に役立つばかりでなく、産業振興にも効果をもたらすと考えている。

Q 障害児教育の課題にどう取り組む
A 実態に応じて実施する

永田英則議員

●永田　①障害児保育の課題。②小中学校コーディネーターの配置は。③特別支援の実態。④障害児療育手帳を有していない児童生徒の通学に対し、教育委員会の考え。⑤小学校には入学できたが中学校へは入学できなかったと報道、本町の入学体制は。

■町長　①家庭や関係機関と連携し適切に対応する。

■教育長　②各学校に一名配置している。③特別支援学級小学校7校中学校3校すべてに設置。④保護者・学校の意見を聴取後、慎重に審議し決定している。⑤就学指導委員会において審議決定している。

老朽化している体育館（甲山小学校）

Q 公共施設の管理、運営は
A 早く方針を決定する

●永田　①クアパルクせらにし。②甲山給食センター。③シャンテパルク新山。④観光施設管理費。⑤橋りょうトンネル。⑥廃止保育所施設の利用。

■町長　①直営、指定管理、譲渡、閉鎖など検討協議中。②教育施設の一部として検討中。③利用者には施設の状況を理解いただいている。④せら農業公園・せら香遊ランド・甲山いきいき村。⑤点検を実施している。⑥本年度中方向性を決める。

Q 国県のH21年度補正予算成立後、世羅町の補正は
A 早い時期に提案する

●永田　経済対策地域活性化に対して予算執行の審議は。

■町長　経済対策事業については、県に事業計画の承認を受け、早い時期に補正予算を提案する。

Q 農地法の改悪と干害対策は
A 町外の参加を進め活性化を

矢山　武議員

●矢山　企業に農地をゆだねて、農地の有効活用を図り、農業委員会にチェック機能をもたせる。農地法の改悪であり、賃貸期間も50年以下に延長した。家族農業を守るべきでは。

　雨が少なく田植えが出来ない田や、今後の稲の生育が心配されるが対策を。

■町長　地域とも連携できる町外農業者の参入を進めたい。

　植え付け不能は13ヘクタール余で、今後水田の干害も予想され対策を検討する。

干ばつで株はりの悪い稲

Q 学校施設の耐震化と障害児教育は
A 耐震診断により整備

●矢山　遅れている学校耐震化への対応が必要であるが今後の計画と財源について問う。

　障害をもたれた児童の通学をどう保障するか。毎日先生が送っておられた例もある。義務教育が受けられるきめ細かい対応が必要である。

■教育長　耐震診断の結果に基づいて整備する。特別支援教育を推進し、受け入れのための条件整備に努める。

Q 固定資産税評価替えと課税は
A 評価基準により課税

●矢山　農業が赤字でも税が課せられる。固定資産税は、評価替えで地価も下がっており見直すべきである。施設用地の農地評価や、簡易な農用施設は償却資産とすべきではないか。

■町長　評価替えで、評価額が低下しており地域の実情を反映し算定している。評価基準と税法により適正に課税している。

Q 小学校統合と地域振興策は

A 連携して取り組む

仲行　洋議員

●仲行　小学校統合を進める上で施設整備、通学対策など万全を期するのは当然。一方、廃校となる地域の振興、活性化策の具体案を示せ。

　合わせて自治センターへの協力体制はどのように考えるか。

■町長　施設整備や通学対策などのハード面はもとより、児童の事前交流などのソフト面においても準備を行い、スムーズな統合を目指す。

　閉校となる地域の振興や活性化については、校舎、屋内運動場、グラウンド、プールの利用などを含め、各自治組織での検討を踏まえ具体案を決定したい。

　自治センターへの協力体制は地域で振興・活性化の検討の際、関係職員を派遣し、助言や情報提供など連携して取り組みを進める。

きちんと並んで下校（せらにし小学校）

Q 旅行村の早期再開は

A 早く方針を決定する

●仲行　現在休村状態のせらにし旅行村の再開を望んでいる。現在の取り組み状況は。

■町長　グラウンドゴルフやゲートボールについては使用していただいている。また、グラウンド夜間照明施設は再開した。温泉施設は、閉鎖も含めた検討もせざるを得ない。他の施設については地域による運営管理も一つの選択肢と、あらゆる方向性を検討している。

　できるだけ早く方針を決定したい。

Q 暴力団の現状は

A 壊滅状態にある

岡田武士議員

●岡田　①宮永組組長逮捕後の経過と現在の様子は。②東洋思想塾北部はどうなるか。③事務所の競売に町が参加する予定があるか。

■町長　①現在は警察の厳しい取り締まりと行政・警察・町民が一体となり、暴力団を始め、反社会的勢力と対峙する活動により、壊滅状態にあると聞く。②政治団体は実在しているが、活動はないと聞く今後とも、関係機関と連携を図り暴力団排除活動を積極的に推進する。③町内から完全に排除することが、町民の日常生活の不安と脅威を取り除くことになると考え、前向きに対応したい。

Q 町職員の健康管理は

A 労使で構成する安全委員会で

●岡田　①日常の健康管理をどう指導しているか。②職員同士の融和はどうしているか。③管理者が常に気配りすべきと思うが。

■町長　①年に一回人間ドック、一般健診の受診を指導している。全庁的に毎週水曜日、教育委員会は毎週月曜日を一斉退庁日と決めている。病休者の状況把握や精神状態が不安定な職員の把握を行い、日常の健康管理に取り組んでいる。②特段指導していない。③労使で構成する安全衛生委員会での情報の共有に努めている。

ＪＡ職員の派遣中止のお知らせ

Q なぜ無くした支所のＪＡ職員

A 支所の取り扱い減少

●岡田　本年４月よりＪＡ職員が引き上げた理由と、Ｈ20年度中の利用者状況は。

■町長　昨年支所への派出職員派遣の見直しの申し出があり、指定金融機関としても効率的でないと判断し、本年４月から支所職員により収納を行っている。

　支所の収納はＨ19年度一日平均38件約34万円Ｈ20年度34件31万円。

Q 将来を見越した政策展開か
A 理解・協力が必要不可欠

奥田正和議員

●奥田　小学校再編では、保育所統合との整合性のなさが指摘されている。説明会で中学校の今後についても発言があったようだが、混乱の起きない進め方が望まれる。支所は有効に活用し充実する旨を聞いているが、行政不信とならないよう進めるべきだ。

■町長　持続可能な町づくりの実現にむけて保育所及び小学校、そして消防団組織の再編について取り組みを進めている。町民や関係者の方々に不安や不信を与えないよう考え方を説明し、意見をしっかり受け止める所存である。合併協定は尊重するが効果のないものは見直し、公約している政策のために具体的な作戦を行う。

有効活用を望む

Q 地域の自治組織への期待
A 運営の権限を地区に

●奥田　自治センターの中には取り組みの進め方に差異があり、指定管理移行に難色を示されているとも聞く。

　指定管理をして良い施設とそうでない施設がある。如何に構想しているのか。

　過疎地域に新たな生活交通システム支援事業は。無医地区解消の手だてにならないか。

■町長　自治センターは収益性に乏しいと認識しており、選定と管理料の算出は別の扱いが必要である。県事業の過疎地域交通システムは町外への運行を可能とし、デマンド交通を補完するものと着目している。現在2地域に打診している。

Q 住民合意のない学校統合するな
A 条件整備は検討・協議したい

豊田　勲議員

●豊田　小規模校には優れた教育を施している面がある。大規模校に優れた面が多いなら科学的なデータを出すべきだ。

　仮によい面ばかりとしても住民合意のないまま統合を強引に進めるべきでない。

■町長　各地域で説明会をして一定の理解を得た。今後条件整備に意見の反映をすべく検討したい。

Q 野積みの物資は公害の心配はないか
A 水質汚濁や悪臭防止を指導する

●豊田　町内の数カ所にトンバック詰めの物が野積みされている。地元住民は「何が入っているのか気持ち悪い、公害になる」と不安の声が増している。町は臭気・水質・土壌汚染防止等の対策を強化すべきである。

■町長　有機肥料で町内に5カ所野積み。長年野積みすると袋が破れる恐れがあり、UVカットシートの被覆を要請。水質汚濁や悪臭防止のため会社を指導したい。

被覆された野積み肥料

Q どうなった裁判の結果
A 控訴せず判決に従う

●豊田　町長が地主を相手に起こした仮処分申請で敗訴し、地主が起こした本訴でも敗訴した。これらの裁判で町は何を得たのか。反省し、今後控訴すべきでない。

■町長　却下でも「占有権」などを得た。控訴せず判決に従う。

Q 尾道松江線の活用策は
A 高速交通網構想を図る

能登哲夫議員

●能登　尾道松江線の一部供用開始を間近にしている。この路線の活用は、町政発展の最大のチャンスととらえる。
　積極的な構想と対応が求められる。世羅町の活性化にどうつなげるのか。

■町長　尾道松江線だけでなく、広島中央フライトロードを含め、高速交通網を活かしきる構想の具体化を図りたい。

一部供用開始間近の尾道松江線

■企画情報課長　高速道路とインター周辺の活力や活性化などの調査研究の事業導入を国交省に提案している。これにより可能性を探るとともに、企業誘致の情報収集に努めている。また、インター付近の土地利用について、課題を整理し、できるだけ早く調査に入りたい。

Q 学校施設整備の財源は
A 補助金と借入金で

中村幸雄議員

●中村　小学校統合に伴う施設整備について町民は大変不安を持っている。
　改築、改修工事と財源の内訳はどうか。

■教育長　統合準備委員会を組織して、8月末に結果が出る耐震診査をもとに施設整備の具体的な内容の検討を行い、今年度中に実施設計を作成し、H22年度に工事を実施する。
　財源内訳は国の補助金と起債の充当で対応していく。

生き生き　放課後児童クラブ

Q 統合後の教育方針は
A 新学習指導要領で

●中村　ふるさと「せら」の地域資源を活かし、自然体験活動など積極的に取り入れる教育とは具体的に。
　特色ある学校づくりはどのように継承するのか。

■教育長　学校、地域が一体となってふるさと学習を推進する。統合により小学校、中学校の連携をより一層進める。
　「特色ある学校づくり」事業は統合後も実施する基本方針で望む。

Q 放課後児童クラブの充実を
A 6年生までを検討する

●中村　放課後児童クラブの利用を6年生まで拡大し、世羅町の負担を独自に増額する考えはないか。

■教育長　次世代教育支援の観点から、放課後子ども教室と連携するために、6年生までの拡大は検討する。
　負担割合については、放課後児童健全育成事業補助金によるもので、現況実施を考えている。放課後子ども教室はH23年度統合に合わせて予定。

Q 世羅の花観光の状況は
A 連休中の入り込み客は増

福田義人議員

●福田義　町の特徴は豊富な自然、農業を基に梨、ぶどうなどの果樹栽培が盛ん。町長が掲げる、町全体が農村公園。春から秋にかけて多くの観光客が訪れ県内外から脚光を浴びてきたが、どの農園もたゆまぬ努力をされている。行政的援助が必要ではないか。

　しだれ桜のふれあいの里は閉園し、せらに し旅行村は休村された、町の観光資源として大切な施設。資金を投入してでも再建すべきでは。またクアパルクあっての旅行村と思うが。

■町長　今年の連休の入り込み客は、増加傾向にあるが、客単価が減少し厳しい状況にある。効果的な告知と情報発信を行い継続的に誘客に勤める。

　クアパルクは、検討中であるが、採算性が重視される。

香山ラベンダーの丘

世羅ゆり園

Q 職場の労働安全衛生は
A 毎月課題に対処

●福田義　合併して以降、職場環境の変化や仕事内容によって、病気療養者が後をたたない。職場の労働安全衛生の取り組みと、再発防止への取組を問う。

　支所は、職員数も年々縮小されているが、住民に直結した支所機能を再考する必要がある。

■町長　毎月労働安全衛生委員会を開催して課題に対処してきた。

　講演会や水曜日一斉退庁や、「休職職員支援制度要綱（略）」メンタルヘルスハンドブックの配布を行ってきた。また、支所職員に負担がかかっているとは思わない。

Q 政府の経済危機対策の活用を
A 実施を通し活性化図る

西田美喜男議員

●西田　H21年度補正予算は、経済危機対策の裏付け予算で、地方に財源措置される。

　例えば、「スクールニューディール構想」学校施設の耐震・エコ・ICT化の推進であり、ほぼ100％国費で財源が決められる。

　本町の活性化につなげる必要がある。

■町長　各課から63事業の提案を受け、地域経済の再生、町民の安全の確保、脱温暖化対策など事業実施計画を作成中、実施を通し活性化を図る。

地域活性化などのアイデア検討中

Q 地域活性化・経済危機対策交付金の活用を

A 早急に国へ申請する

●西田　本町に5億100万円が交付の予定で、新しい事業を実施計画しないと交付されない。

事業例は①地球温暖化対策②少子高齢化社会への対応③安全安心の社会の実現などが挙げられ、実施計画の策定に町長の考えを伺う。

■町長　新規事業のヒヤリングを行い、経済対策に各種交付金の有効な充当を検討段階で早急に国へ申請する。

Q 各種基金の設置と活用を

A 事業推進を図る

●西田　拡充される基金「緊急雇用創出事業基金」など5基金、新設「地域グリーンニューディール基金」など9基金、計14基金。

創出理由は実施事業が複数年度で、基金の活用は自治体の意欲による。本町もアイデアを出し、積極的に活用する必要がある。

■町長　地方関係の基金事業は、県・国の事業要望情報を企画情報課で取りまとめ、地域活性化・経済対策で事業推進を検討する。

【休載のお知らせ】

●安佐長秀議員は「本人の都合」で原稿の提出がありません。

質問項目の記載にとどめ、内容は休載とします。

安佐長秀議員

（質問項目）

1　当町の職員の組織に於ける業務管理、能力的管理の点検と町民に信頼される行政組織の考えと職員教育と人事に対して。

2　せらにし青少年旅行村、クアパルクせらにし休園中について。

3　開かれた自治体について。

甲山中学1・3年生ボランティア活動　街を美しく！

一般質問投稿ルール

※一般質問欄は質問者が、質問と回答を約450字程度にまとめたもの。

皆さんからの 請願と陳情 このように決めました

■採択となったもの

◎**大田地区の水路を改良してほしい。**

大田地区振興会連絡協議会　会長　實川　瀧雄
大田町振興会　会長　開谷　陸男
栄町　振興会　会長　安佐　義和
昭和町振興会　会長　升本　正明
（賛成15反対0）

◎**野積みにされた発酵堆肥を撤去してほしい。**

小世良地区コミュニティ推進協議会
会長　末盛　守
（賛成15反対0）

■不採択となったもの

◎**小規模校再生の道を探ってほしい。（もっと時間をかけて議論を）**

宇津戸小学校残そう会　会長　峠　幸雄
宇津戸小学校PTA　会長　新家　真司
（賛成2反対13）

◎**最低賃金引き上げ・公契約条例制定を求める意見書を政府に出してほしい。**

広島県労働組合連合　議長　尾野　進
パート・臨時・嘱託労組連合会　会長　大内　理枝
（賛成2反対13）

元気な人紹介

輪一諸（ワッショッイ）の笑顔のまちづくり

常識に挑戦し続ける男

世羅町小国　宮田　聖己（まさき）さん

「オーナーが輝けば従業員が輝く。従業員が輝けば店が輝き、町が輝く、そして元気が発信できる。」いつも笑顔が耐えない宮田聖己さんは語る。

商売も思うようにならないと不景気のせいにしてはいませんか。不景気を逆手に、チャンスと捉え、原点に帰ることが必要でしょう。

オバマ大統領のキャッチフレーズは「チェンジ」私は、「知恵時（チェンジ）＝知恵を出す時」と言いたい。

「叶える」という字は　口にプラス＝叶。話はいつも前向きにプラス思考で進みたい。

また、笑顔でいると良い事がある。体が温まる。スポーツでは記録が向上する。その上、心のマッサージ効果もあると言われます。笑顔の練習も簡単に出来ますよ。

先ず、割り箸の先を唇に咥える→これは苦虫の顔。横にくわえると笑顔になりませんか。時間を作って笑顔づくりを続けてみませんか。心が柔かくなるでしょう。

物事には節目があります。一・三・五・十年、正月・お盆・年末など…。節目こそ原点に返って、自分自身を見直す時。また感謝するときです。スランプや不況は、心を磨く絶好のチャンスと捉える。「泣く」は「サンズイに立つ」苦しいなみだにも耐えて立ち上がれば、心も強くなり幸せが待っています。

幸せを呼ぶ基本は「器」の心

① 話す口＝相手に気持ちを伝える力（挨拶など）

② 笑う口＝笑顔のあるところに人が集まる（笑顔の口）

③ 食べる口＝健康、生活のリズム（きちんと食べる習慣）

④ 辛口（カラクチ）＝人の忠告に耳を傾ける（謙虚な気持ちで）

この四つの口を大きく育てる「器」を作る。商いは笑顔で自分を売り込み、そこで心を磨く。

笑顔は歯磨きと同じで、毎日磨くことが必要です。嬉しいから笑う。楽しいから笑う。泣きたい時こそ笑おうよ。きっと良いことが訪れる。

地域の心をひとつにして感謝をささげるのが祭り。掛け声のワッショイは、「輪が一諸」。祭りには笑顔が似合う。「あんたの顔は親のせい、あんたの笑顔は自分のせい。」みんな一緒に笑顔で暮らそう。笑顔で町が輝く、我が町から元気を発信しよう。

編集後記

温暖化の影響か。町内の5月降水量は33ミリで、33年ぶりという最低を記録した。山田川ダムの貯水率が4・8％にまで落ち込んで、水稲、畑作に大変不安を投げ掛けた。

小学校統合で白熱した6月定例会。H23年度に向け、町内の10小学校が4校に統合されることに決まった。

町内の小学校は、それぞれ特徴を持った学校である。

少子化で小規模校は「知・情・意」のなかの「知性」を培うことは出来ても「感情」「意志」の円満な発達を促すことは難しい。しかし適正規模校では、「知情意」を培う人間教育が出来ると思う。

しかも、単に教わるだけでなく、同時に自分も語り、多くの意見を聞き、競い合い、互いに励まし合うという切磋琢磨がある。

一校に集中すると言うことではなく。新しい学校をみんなで建設するという精神で進みたいものである。

児童が、この町で育って良かったといえる世羅町にしたい。

（西田）

議会を傍聴してみませんか

次回定例会は9月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議会広報公聴調査特別委員会	委員長／福田　義人	
	副委員長／松本　秀治	
	委　員／西田美喜男・安佐　長秀	
	福田　　豪・奥田　正和	

ラベンダーの香りがいっぱい

PRINTED WITH SOY INK。この広報は、環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。